

第15回九州「川」のワークショップ in 諫早の報告 及び本明川での住民連携について

長崎河川国道事務所 調査第一課 ◎穴井 利明
米山 直貴
河川管理課 ○小田 将義

1. はじめに

長崎県における過去の災害を振り返ると、昭和32年の諫早大水害（写真－1）、昭和57年の長崎大水害、平成3年の雲仙普賢岳噴火災害など、度重なる大災害に見舞われてきたところである。特に、昭和32年に本明川流域で発生した諫早大水害では、630名もの尊い命が奪われるなど、多数の方々が土砂災害や浸水被害などを被っている状況にある。

しかし、現在においては本明川本川についての堤防整備並びに環境整備も整いつつあり、人々が川と触れ合い、親しめる、潤いのある水辺の整備を目指すなど、沿川住人にとって憩いの場、安らぎの場として親しまれている状況にあり、川に関わる住民団体の活動もさかんである（写真－2）。

このような中、平成27年11月に諫早市において、九州各地の川において地域の川をよりよくすることで地域づくりにつなげていこうと、市民団体、企業、学校、行政など官民が一体となって実施する、九州「川」のワークショップが開催されたので、その報告と、本明川流域で活動する住民（団体等）との今後の連携について発表する。



写真－1 諫早大水害



写真－2 本明川利用状況

2. 第15回九州「川」のワークショップ in 諫早

2. 1. 初の本明川流域での開催

平成27年11月14日（土）から15日（日）の2日間、第15回九州「川」のワークショップ in 諫早が一級河川本明川にほど近い、諫早市中央公民館（市民センター）において行われた。

九州「川」のワークショップは、平成13年に福岡県久留米市で開催された第1回大会から毎年続いているが、今回のワークショップは、長崎県内における開催としては平成20年の第8回大会（波佐見町）以来2回目で本明川流域では初めての開催となった。

(写真－3・4)。今回は九州各地から集い、過去最高となる53団体の発表がなされた。



写真－3 会場内の様子



写真－4 発表風景

2. 2, 今回のワークショップの特徴

今回のワークショップの特徴として、過去の水害・災害から受け継がれた防災への教訓を、次世代にどう伝え、どのように地域をつないでいくかについて、「伝えて・つなぐ！みんなのよか川」をテーマに、全体討論の場において「川の楽しさや怖さを伝える活動事例」として「念仏講まんじゅう供養（長崎市）」や、「諫早万灯川まつり（諫早市）」（写真－5）を紹介し、次世代へ「伝える」活動や「つなぐ」活動について意見交換（写真－6）が行われた。

また、エクスカージョンとして、地元の方々のご協力により諫早大水害の痕跡や移設された眼鏡橋を散策する「本明川さるく」が行われ、本明川の現場においても活発な意見交換がなされた。



写真－5 諫早万灯川まつり



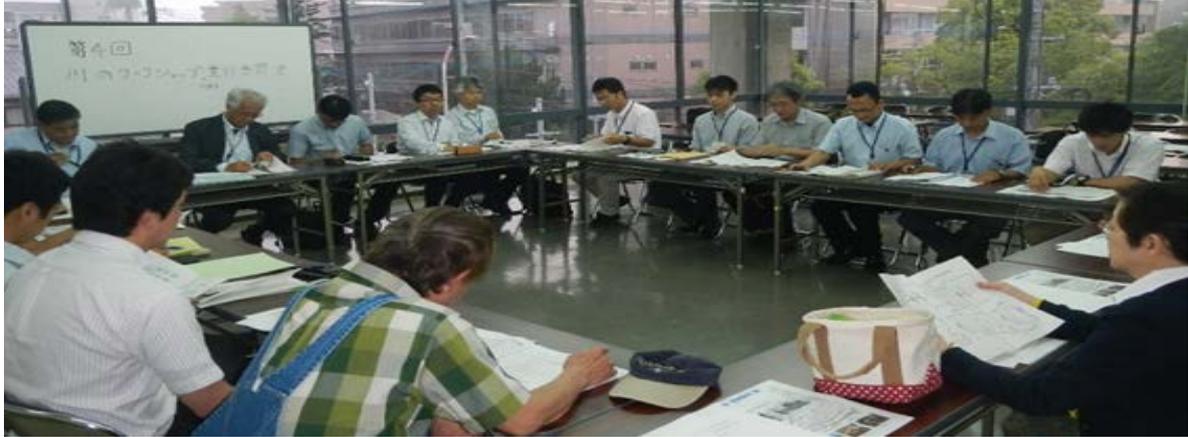
写真－6 全体討論の様子

2. 3, ワークショップの運営

平成20年11月の九州「川」のワークショップ in 長崎・波佐見の終了後、ここに関わった団体で「長崎よか川交流会」が設立された。

「長崎よか川交流会」とは、長崎県内の河川に関わる活動団体、大学、行政ならびに個人の交流による情報交換、及び相互扶助と河川に関わる研修を行い、長崎のよか川を愛し、楽しみ、守り育てることを目的として活動しており、当所も会の一員となっている。

今回のワークショップの実行委員会（写真－7）は、この「長崎よか川交流会」を中心に構成されていた事と、新たに本明川流域で活動している各団体のネットワーク母体「本明川交流会」が参画して、当所としても「長崎よか川交流会」の方々との普段から交流していた事から、1年間にもおよぶ実行委員会の運営がスムーズに行われた。



写真－7 実行委員会の開催状況

3、本明川流域での住民団体等の活動

3. 1、本明川流域で活動する住民団体等

本明川には流域で活動されている28団体により設立された「本明川交流会」があり、同会全体としての主な活動として、今年で7回目となる本明川の桜づつみにおける清掃活動（「桜づつみをきれいにせんぼ！」）が毎年行われている（写真－8）。また、各団体の活動発表や意見交換の場として、「本明川交流会の集い」がある。

一方、同会に属する各団体の活動には水質調査、環境保全、環境美化、環境学習、川の利活用（写真－9）、川の防災・減災意識の向上など多種多様である。



写真－8 「桜づつみをきれいにせんぼ！」 写真－9 川の利活用（魚のつかみどり大会）

3. 2、「本明川交流会」と「長崎よか川交流会」の連携

ワークショップ実行委員会のメンバーは、「長崎よか川交流会」の会員を中心に構成されたが、「本明川交流会」の会員も同会のメンバーとしてワークショップの運営に携わっていた。これを契機として「本明川交流会」が「長崎よか川交流会」に平成28年5月に加入した。

このことにより「本明川交流会」としては、本明川流域で活動する各団体相互間のネ

ネットワークに加えて、「長崎よか川交流会」とのネットワークができたことになり、それぞれの団体の会員同士の交流が深まっていくことが期待される。現在までの動きとしては、平成28年6月に開かれた「本明川交流会の集い」に「長崎よか川交流会」の会員が参加し、「第15回九州「川」のワークショップ in 諫早」についての報告（写真－10）がなされ、相互連携の動きがスタートしたところである。



写真－10 本明川交流会の集いにおける長崎よか川交流会からの報告状況

4, おわりに

「本明川交流会」が今回のワークショップをとおして、長崎県内の他の住民団体と連携した事で、「本明川交流会」の会員同士の連携が一層深まったと思われる。今後さらに連携が強化されれば、河川協力団体としての登録も期待できる。これにより、当所としてもより効果的な支援ができ、その成果として活動の幅が広がれば地域活性化へつながるのではないかと考えており河川協力団体登録に向けて調整を進めていく。